

6 3 6 1 - 7 9 0  
平成 2 0 年 9 月 2 4 日

各関係機関長  
各病害虫防除員 様

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター - 所長

平成 2 0 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号について

平成 2 0 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号を発表したので送付します。

---

## 平成 2 0 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

1 病害虫名：ヨツモンカメノコハムシ（ハムシ科：*Lacoptera nepalensis*）

2 発生作物：サツマイモ

3 発生確認の経過

本年 5 月、県南部の南那珂地域においてサツマイモの葉を食害するハムシが発生しているとの報告があり、その後、県西部の北諸県地域でも同虫の発生が認められた。

門司植物防疫所に同定を依頼したところ「ヨツモンカメノコハムシ」であることが確認された。本県での本種の発生確認は初である。

本種は、日本では沖縄本島以南の南西諸島、世界では中国南部、台湾、インドシナ、ミャンマー、インドに分布しているが、九州本土では平成 11 年に長崎県、平成 14 年に鹿児島県で確認されている。

4 特徴

成虫の体長は 7.5mm ~ 9.0mm となり、国内最大級のカメノコハムシである。

成虫は扁平なだ円形で、体の中央部は茶褐色、周縁部は半透明の黄褐色 ~ 薄褐色で、左右の鞘翅の前方と後方の縁に黒色 ~ 黒褐色の大型斑紋がある。

幼虫は扁平な紡錘型で、周囲体側に樹枝（ノコギリ）状の突起を有する。

また幼虫は、脱皮殻や糞を尾部（尾毛）に付け、背面に背負っている。

5 寄主

寄主植物はサツマイモやノアサガオなどのヒルガオ科の植物である。

幼虫、成虫とも主に展開葉を摂食する。

6 被害状況

食害痕はナカジロシタバやエビガラスズメなどのチョウ（鱗翅）目害虫の初期食痕と類似している。摂食は葉の中心部が多く、長径 4 ~ 8 mm の楕円形の穴を開ける。

多発した場合には、葉が網目状になることもある。

## 7 防除対策

通常の害虫対策を行っているほ場では実害には至らないと思われるが、植え付けから生育初期段階での加害には注意が必要である。



写真1 成虫



写真2 幼虫



写真3 被害葉（食害痕）

### 《連絡先》

病虫害防除・肥料検査センター 加治佐、米良

TEL :0985-73-6670 FAX :0985-73-7499

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ : <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>